



# JBRC

## 小型充電式電池の安全な廃棄について

2023年 8月3日  
Rev.2

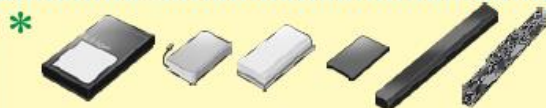
 一般社団法人 **JBRC**

# JBRCの回収対象物

## 通信機器



## OA機器



## 防災設備・機器



## AV機器



## 日用品他



防災設備・機器等の小型充電式電池は一般のリサイクル協力店では回収していません。  
携帯電話・スマートフォンへの充電を主機能とする小型充電式電池が組み込まれたポータブル蓄電装置モバイルバッテリーは本体回収になりますので、分解しないでください。

\*使用されている小型充電式電池

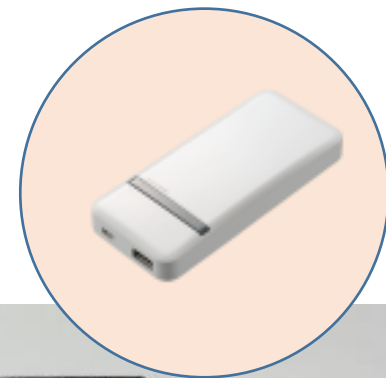
**「小型充電式電池」を機器から取り外してください!**

回収対象は[JBRC会員]の使用済み小型充電式電池です。

  
**Ni-Cd**  
ニカド電池



モバイルバッテリー  
(2017年4月より  
本体回収スタート)



  
**Ni-MH**  
ニッケル水素電池



  
**Li-ion**  
リチウムイオン電池







**鉛蓄電池** 「鉛蓄電池」、「小形制御弁式鉛蓄電池」 制御弁式鉛蓄電池」の表示、「Pb」の記号があるものは対象外です。



**乾電池** マンガン乾電池、アルカリ乾電池及びその他の使い切りタイプの乾電池は対象外です。



**リチウム一次電池** 「リチウム」や「Lithium」のみの文字表示、「CR」、「BR」、「ER」の記号があるものは対象外です。



**コイン電池**  
**ボタン電池** ※  
コイン形状、ボタン形状の電池はすべて対象外です。  
※ボタン電池は  
（一社）電池工業会が回収

**大形の鉛バッテリー、アルカリ蓄電池**  
(開放形ニッケル・カドミウム鉛蓄電池等)も対象外です。



安全な回収のために

## ■ リチウムイオン電池の金属缶回収を開始（2018年7月～）

- ・ 従来の段ボール箱回収から、金属缶（リサイクルBOX缶・ペール缶）へ移行

## ■ 金属缶回収の拡大（2019年10月～）

- ・ 全電池種（3種類）を金属缶で回収

## ■ 樹脂容器の導入（2020年8月～）

- ・ ペール缶の内部に樹脂容器を入れて二重構造化

- ・ リサイクルBOX缶

- ・ ペール缶

- ・ 樹脂容器



【排出協力店様タイプ】外装BOX



容量；7ℓ（7kg）

直径；185mm、高さ；264mm

【排出事業者様タイプ】



容量；20ℓ（10-20kg）

直径；308mm、高さ；367mm

※日本舶用品検定協会の認証取得済み



## ★D社用非純正バッテリー

### 1. 10/29経産省からのリリース

- 1) 「すみとも商店販売品」 : 8/16リコール開始～10/5倒産
- 2) 「ロワジャパン販売品」 : 10/1リコール開始～継続中

### 2. 12/17経産省からの再リリース

- ・掃除機運転による放電処置 ～廃棄対応
- 1) 「すみとも商店販売品」 : 放電後、自治体・産廃処理対応
- 2) 「ロワジャパン販売品」 : 放電後、ロワによって回収対応

### 3. JBRC回収品への混入状況

- ・混入数 : 567台 (2023年4月末)
- ・発熱、発火事故 : なし
- ・**損傷事案** : **(3件損傷した物が混入)**





## ■一般消費者のリサイクル意識向上の施策展開

- ①リサイクルクイズキャンペーンの実施
- ②出前授業： 13ヶ所実施
- ③展示会出展： 5ヶ所実施



武蔵野市クリーンセンター



練馬区関町リサイクルセンター

### 低年齢層に向けた啓発活動の取り組み

- ・ 小型充電式電池の種類やそのリサイクルについて  
開催自治体に合わせた廃棄方法の紹介及び  
リチウムイオン電池の家庭ごみへの混入による  
火災発生の情報提供も合わせた講義



環境広場さっぽろ(7月)

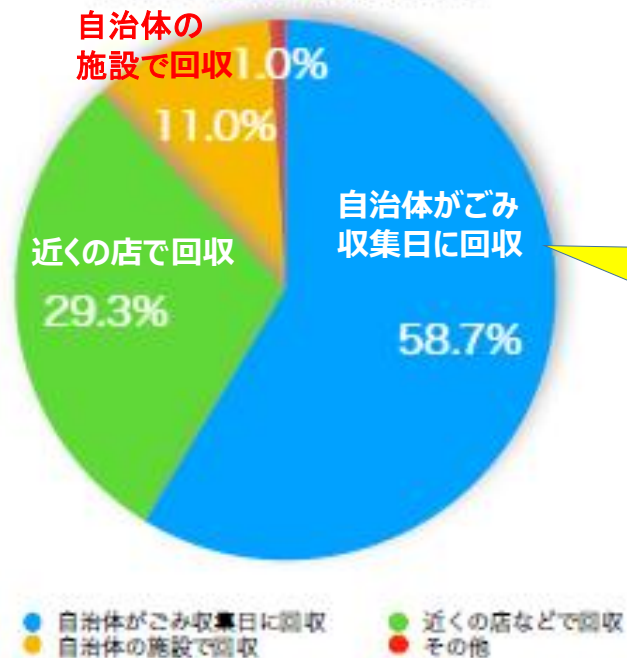


エコプロ2022(12月)

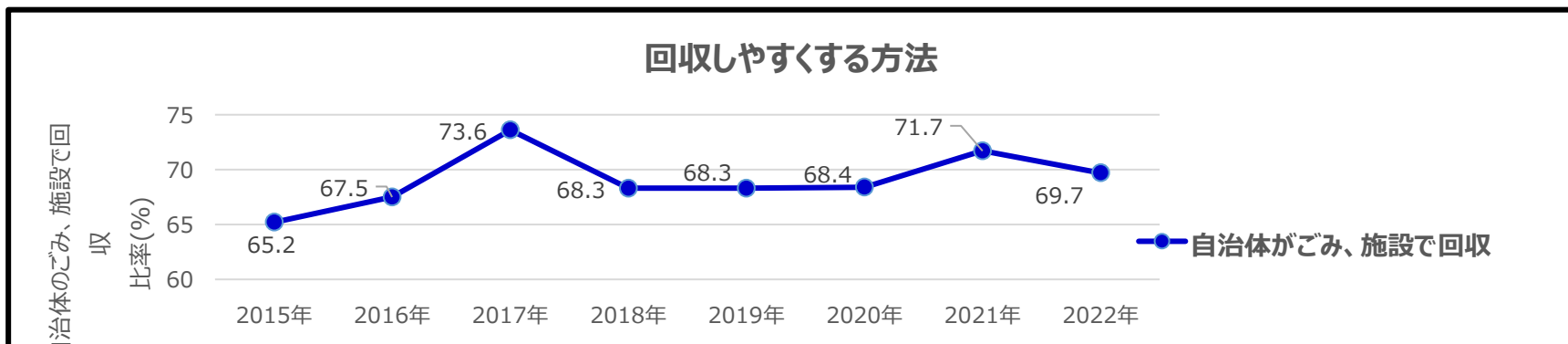
**住民に寄り添った回収を目指して**

## ■ リサイクルクイズキャンペーンのアンケート結果（2022年度）

Q：充電式電池を回収し易くするには？



住民の約70%の方は施設回収を含めて自宅近くの廃棄場所「ステーション回収」を望んでいる！  
 （過去8年間70%前後）



# 自治体での回収しない場合、誤認識も発生しやすい

## 2021年8月リサイクルクイズキャンペーンアンケート結果より

小型充電式電池を廃棄したことがありますか？	構成比
お店で機器ごと回収してもらった	17.5%
「排出協力店」に持っていった	17.2%
自治体で「充電式電池」を回収してもらった	13.1%
自治体で機器ごと回収してもらった	9.5%
電動アシスト自転車の「充電式電池」を自転車店で回収してもらった	3.9%
ない	46.4%
計	2,763件

自治体で回収してもらった：どのように回収してもらいましたか？	構成比
自治体が充電式電池の回収をしていた	40.6%
乾電池と一緒に出した	17.2%
不燃ごみとして出した	11.6%
外装がプラスチックだったのでプラスチックごみとして出した	3.6%
外装がプラスチックだったので可燃ごみとして出した	2.4%
その他	2.4%
計	335件

約18%が  
危険な  
方法で  
家庭ごみ  
として出  
している



JBRCでは自治体の可燃・不燃・プラスチックごみ等へのリチウムイオン電池混入によるパッカー車及び処理施設での火災防止には、住民にとってより身近な排出場所である自治体での回収が効果的だと考えており、2022年度の実行計画として自治体の一廃登録拡大をあげている。

## 【JBRC想定混入理由】

- ①近く（便利）に捨てる場所がない
- ②捨て方が不明（説明不足・知識不足）
- ③製品の物性による排出者の勝手な判断  
（②により自分に都合よく棄てたいという意識）



**行動変容①～③の住民に行動し易い環境を提供する事が重要**

- ・自治体自ら回収
- ・ごみ冊子に自治体で回収するごみとして捨て方を明記



## 【行動変容5ステップ】

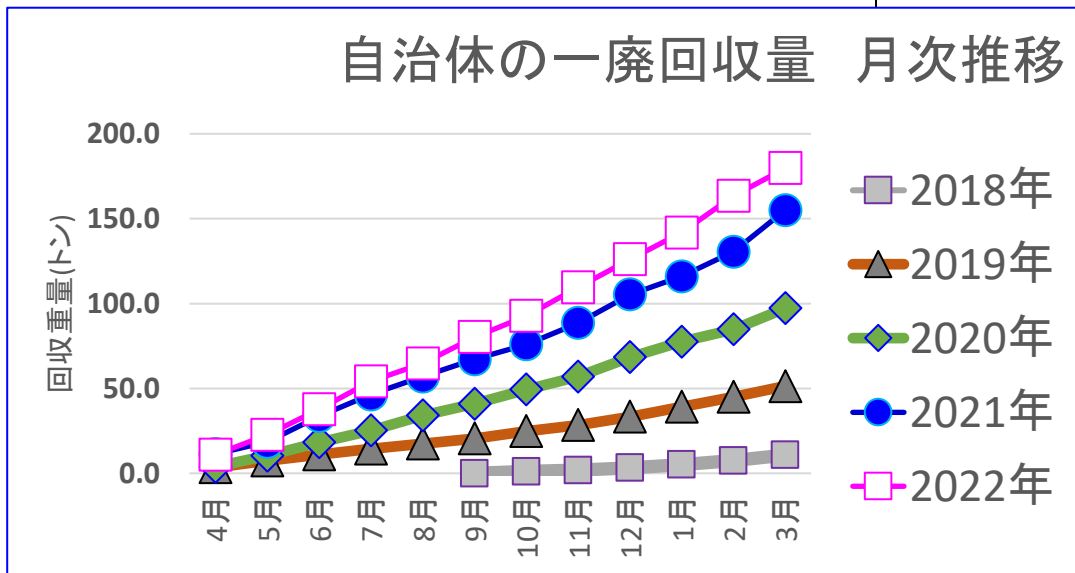
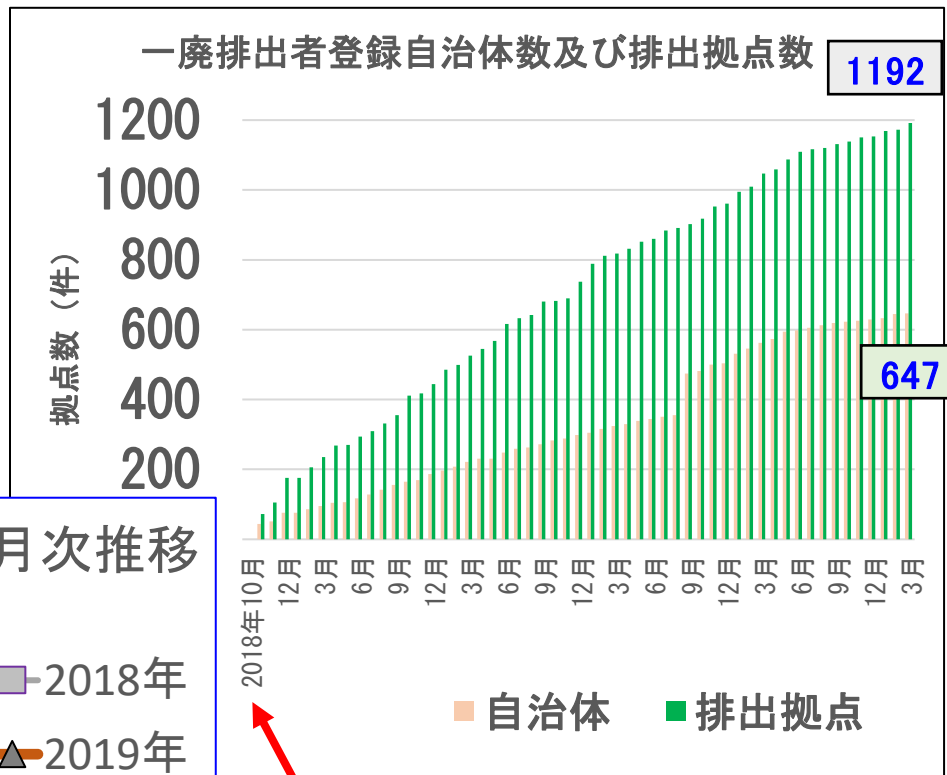
- ①無関心期
- ②関心期
- ③準備期
- ④行動期
- ⑤維持期

**自治体で正しく回収することにより、他のごみへの混入減少**

## 【自治体からの回収量は着実に増加】

2022年度  
回収量実績：約**180トン**  
(対前年比116%、JBRC内の約11%)

2023年度回収量予想  
約**230トン**  
(JBRC内の約**13%**)



環境省廃棄物適正処理推進課より  
広域認定の一廃取得

# 今後の取り組み

## 1. 捨てる時の取り組み

### 1) 自治体による最上流排出者となる消費者への啓発

要望：①意識の**行動変容**に繋がる施策を期待

②LIBの廃棄時における**危険性PR**

- ・一般ごみへの不適切な混入による発火事故**増大**
- ・不燃ごみと言えども**意外と危険**

施策：自治体から消費者への分別徹底の啓発を強くする  
(※JBRC独自の啓発チラシも活用していただく)

### 2) 排出事業者の方には、**安全回収**に向けた対策徹底のお願い

施策：①**金属缶**回収による安全性の担保 (JBRC独自)

- ・金属缶内部に樹脂ボックス採用による二重化

②収集運搬時の短絡防止

- ・回収電池の**絶縁処置**



## 2. 自治体と協力した収集運搬側の取り組み

### 1) 回収しやすい場所の提供

施策：JBRCは2018年9月に「一廃広域認定取得」  
これを機に全国自治体への排出場所登録の拡大活動中

- ①環境省 「令和4年度LIB対策集」最新版内容について  
JBRC回収対象外電池の回収ルート紹介（野村興産）  
環境省ホームページの下記のコーナーに掲載  
「リチウム蓄電池関係／自治体の皆様へ」

URL：[https://www.env.go.jp/recycle/waste/lithium\\_1/index\\_00002.html](https://www.env.go.jp/recycle/waste/lithium_1/index_00002.html)

野村興産の言及：「P.26の項目2.52（2）その他の回収ルート」  
野村興産の自治体カバー率は全自治体の約三分の二になります  
（1096／1741自治体）

現在、JBRCと協力して未契約自治体への勧誘を実施中です

- ②経産省 「令和4年度事業者検討会（非公開）」における  
アクションプランについて

## 2. 自治体と協力した収集運搬側の取り組み

### 2) 放電して廃棄することの重要性を啓発(LIBのみ)

施策：消費者や排出事業者への働きかけ

- ・会員企業へお願い通知を発信済み（5月号）
- ・即効性を求めてHPでも掲載開始

※廃棄時の残存容量調査（JBRC回収品テスト）

結果：安全側…工具・自転車 > MB・掃除機…危険側

回収LIBの中では比較的工用具用・自転車が安全であり、モバイルバッテリーに続いて掃除機用が一番危険な状態と言える

用途	残存電気容量	
	平均	SOC30%以下シェア
工具	18.1%	79%
自転車	27.0%	67%
モバイルバッテリー	46.6%	50%
掃除機	63.7%	8%

## 2. 自治体と協力した収集運搬側の取り組み

### 3) 放電後の安全効果検証

SOCは「State Of Charge」の略で、充電率または充電状態を表す指標です。満充電状態を100%、完全放電状態を0%と定義しています。

- 条件：①モバイルバッテリー（マンガン系）  
②満充電(左側)と放電後(右側)で比較

方法：釘刺し試験結果（JBRC独自試験動画）



一般社団法人 J B R C は、循環型社会形成に貢献するため、安全・安心な小型充電式電池の回収・再資源化を推進しております。今後とも引き続き、ご支援・ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

LINE登録のURL : <https://lin.ee/Lq5N6wa>

YouTube登録のURL : <https://www.youtube.com/@JBRC-nd5ph>

ご清聴ありがとうございました。



一般社団法人 **JBRC**